

70. 積雪寒冷地の農家の衣生活（第3報）

——山形県大石田町海谷地区の夏季実態——

福島大学芸 高橋キヨ子

1. 前2報（34年7月・10月）に続き「積雪寒冷地農村における家庭生活の特質と生活改善に関する研究」の一環として、衣生活について行ったもののうち、

(1) 着衣状況及び寝具・寝衣の構成と機能について。

(2) 衣類の洗濯及び乾燥の過程について。

の観点より、先ず夏季の実態を予備的に調査した。

2. 山形県大石田町海谷部落（旧亀井田村海谷）は山形市の北方40km、山形盆地の北端にあり、最上川に丹生川が合流する地点であり、水田を主とし、若干の養蚕を行っている。農家105戸より経営規模、家庭構成を指標として46戸を抽出、本年7月に聞き取り調査を行った。

3. (1) 作業衣については東北地方一般と大きな違いは見られず、田と畑では多少変わるが家庭着として特に定めたものはなく、入浴後の着換えも養蚕をする主婦や嫁はしていない。概して階層より年令による種類の違いが見られ、既製品の購入も多くなっている。(2) わらふとんの使用は少く、一部老人が床にわらを敷き、その上にむしろ、ふとんの順に重ねる。敷布は格子、縞木綿が多く、白布は若夫婦、上階層に少し見られる。(3) 洗濯は季節的にいって多いが、作業衣の水洗濯が多く、子供物や必要に迫られたもののみが固形石けんで洗われ、女兒が小学生から自分で洗うことや、又、殆どの家に綿入はなんてんの汚れたままのものが壁際に掛けっぱなしになっていること等に農労働の夏季集中性が見られる。